

資 料

1. 自我の成熟過程	19
2. 三 基 盤	21
(1) 身 体	21
① 姿 勢	22
② 移 動	24
③ 操 作	26
(2) 情 緒	30
(3) 認 知	35
① シンボル	36
② 弁 別	37
③ 空 間	38
④ 時 間	39
⑤ 数 量	40

I 基本的欲求が強く、個人の動きに強烈に影響を与えている段階	II 社会的自我の発展への内的衝動の萌芽が認められる段階	III 自分と他者を区別し、社会的承認を求め、集団生活への参加を求める段階
<p>A. 食物を求めるなどの基本的欲求のみがいたずらに強く、したがって関心は、それが充足されることに指向している。</p> <p>B. 基本的欲求の対象以外の関心は、浅く狭く、一人うつろな目でボンヤリしている（あるいは爪をかんだり、指を口にくわえたりしている）。しかし、だれかがオドケタまねやオドカシタリすると身体運動を伴って反応する。</p> <p>C. 欲求が充たされさえすれば機嫌がよく欲求が阻止され関心が拘束されると、情緒的爆発は強烈で、泣き叫んだり手足をバタつかせたりする。</p> <p>D. 競争意識はまだ芽生えていないし、羞恥心もない（はだかでとびまわっても、また用便のとき便所の扉が開いても意に介さない。洋服が裏返しになっていようと、顔が汚れていようと平気である）。</p>	<p>A. 関心の領域は、食物などから少しずつ広がり、珍しい物には手を出したが、自分の所有物を奪われると取り返そうとする意識が出てくる。</p> <p>B. 他の子どもが遊んでいるのに少し関心の目を向け、時には模倣しようとしている。ただ、その模倣は形式的である（内容でなく格好だけを機械的にまねる）。</p> <p>C. 情緒の爆発はなお強烈で、またすぐ変転する。ただ、情緒の表出はやや技巧的になる（例えば怒ったり泣いたりする場合は、周囲の人々の反応を求めてぶったり、大げさに倒れて手足をバタバタやったりする）。</p> <p>D. 羞恥意識もおぼろげながらあらわれる。例えば、はだかで飛び回ること（それを周囲の人がワイワイ騒ぎ立てることは、なんとなくおかしいことだと意識する）。</p>	<p>A. 関心の範囲はさらに広がり、他の子どもや大人にも及んでいく。</p> <p>B. 単なる形式的機械的模倣から、役割として模倣しようとする意識がみられる。（例えばゴッコ遊び）</p> <p>C. 自分の欲求が満足される範囲内で、友だちを手伝ってやったり世話をやいたりする。</p> <p>D. 自分のしたいことを主張し（時には我を張り）、自分の力を機会をとらえて試そうとする。それが障壁にぶつかるとう、激しいケンカとなつてあらわれる。</p> <p>E. 自分が他者との関係でどのように存在しているかおぼろげながらもわかってくる。特に能力の弱い者を負かして一人悦に入っていたり、だれか見ているとますます虚勢をはり、珍しいものなどを見せびらかす。</p> <p>F. 人が見ている（干渉する）と、わざとふざけたり、気むずがったりする（だれもいないところではおとなしいのに）。</p>

<p style="text-align: center;">IV</p> <p>自己中心性から脱却し、社会的承認を求める心が強く、自己客観視が芽生えてくる段階</p>	<p style="text-align: center;">V</p> <p>自己客観視が確立し、自己実現の展開への内的衝動の萌芽がみられる段階</p>
<p>A. 周囲の人々の役割を知り、単なる役割の模倣ではなく役割を分担しようとする意識がみえてくる。</p> <p>B. 自分より力の劣っている者が困っていると慰めたり、喜ばそうとして世話をやく。</p> <p>C. 集団（仲間）からのけものにされまいとし、集団からの承認を得ようとする。</p> <p>D. 他者の行動の邪魔にならないように心がけるし、また積極的に協力しようとする。</p> <p>E. 自分と同程度の力のあるものを相手に争おうとする意識がでてくる（能力差がありすぎる場合には相手にしなくなる）。</p> <p>F. 自分のほうがすぐれていることによって優越意識を、また負かされることにより、劣等意識をもつようになる。</p> <p>G. 教師や親から自分が特別にめんどろをかけられていることを知るとうれしがり（大勢の人の前ではとくに）、逆に自分以外のひと（とくに競争相手）がチャホヤされていることを知ると嫉妬する。</p> <p>H. 本当は欲しい（してもらいたい）のだがすねることがある（これは相手をためすという下心からあらわれていることが多い）。</p>	<p>A. 集団の中での役割の責任をまっとうすること（そのことが自他ともに承認されていることがいふまでもなく必要である）、がさらにより重要な役割（高い地位）を得ることを目指す姿勢がとれている。</p> <p>B. 自分是不利でも、または自己を犠牲にしても他の人が困っていると援助しようという意識が芽生える。</p> <p>C. 他者の目を極度に意識し、自分の容姿、服装、姿勢、身振り、歩行、声、知能などを気にする。（自分が他者にどう思われているかを非常に気にする）。</p> <p>D. 人前で情緒をむき出しにすることは恥ずかしいことだ、という意識がでてくる（例えば人目を避けて忍び泣くとか、怒りをいったん胸の中におさめるなど）。</p> <p>E. 他者との競争心によって啓発された意欲は、自己との闘いという形に転化する。すなわち、作業など昨日の自分の成果よりも今日より多くやろうとか、質的によりよいものを作ろうという努力に変わる。また「あるべき自分の姿」を心に描いて、少しでもそこへ近づこうという気持ちがでる。</p> <p>F. 自分の能力のなさ努力の不足に対して怒ったり（単に所有物が奪われたなどが原因でなく）また、自分が軽蔑されたとか、相手が約束を守らなかった（弱い者をいじめた）などの理由からけんかをする。</p> <p>G. 心の中で別の状態を立てて策略する（人をだますなど）ことも、将来の自分のあり方を指向することもでき、自我は時間的空間的に拡大し深くなる。</p>

身 体

1 発達段階表の基本的な考え方

身体では、かかわり合い行動を分析的に見るために姿勢・移動・操作の三つを下位項目として位置づけ、より細かに、そして日常生活との関連性をふまえながら発達段階の作成を試みた。また、下位項目を支える要素として、行動を起こす能力「筋力」（なお瞬発力・持久性も含める）、行動をコントロールする能力「敏捷性」「平衡性」「協応性」「巧ち性」「柔軟性」を考え、分析することにした。下位項目、並びに要素の大まかな概念は以下の通りである。

（下位項目）

- ・姿勢： 姿勢とは動きの安定性にかかわる能力のことをさす。ここでは、身体軸を静止した状態で曲げる、伸ばす、ひねる、回転するといった動きや平衡バランスの動きの状態をみる。
- ・移動： 移動とは、手・足などの四肢全体を使って、身体軸を動かし、自分の体をまわりの空間に動かす能力をいう。ここでは、歩く、跳ぶ、走るなどの身体軸を動かしている状態での移動の発達段階をみるとともに、その時の手・足など体の動かし方がどういった状態であるかをみる。
- ・操作： 操作とは物を媒介とした手指の運動能力のことをさす。ここでは、物体をつかんだり、投げたり、捕らえたり、受け止めたり、押えたりするなど手指による微細運動を中心にみる。

（要素）

- ・筋力： 筋の収縮によって発生する物理的なエネルギーである。すべての運動の原動力であり全身的な身体運動はもちろんのこと、手指の運動もこれに含まれる。
- ・敏捷性： 刺激に対して速やかに反応したり、身体的位置をすばやく変えたり、方向転換をすばやく行ったりする能力である。
- ・平衡性： 安定した面上で、また動いている面上で身体をある姿勢にたもつ能力である。
- ・協応性： 身体の各部分、あるいは筋肉のそれぞれがある目的のために、同時に調和のとれた動きをすることをいう。
- ・巧ち性： 動作を目的に合わせて、巧みに行う能力をいう。
- ・柔軟性： 運動や作業を行う際、その子の持っている筋肉の柔らかさをいう。

2 評定するにあたっての留意点

- * まず、各項目ごとできるものについてチェックする。（大まかな発達段階を探る）
- * 次に、チェックされていない項目について、支える要素をみながらどんな運動能力・機能に落ち込みがあるのか分析していく。ただし、その要素が子どもにあてはまらない場合には、各要素柔軟に使うといいとする。

1 姿 勢

ステージ	発達年齢	項 目	チ エ ック	筋 力	敏 捷 性	平 衡 性	協 応 性	巧 ち 性	柔 軟 性	
第 1	1～6か月	1 腹ばいから頭をあげる		○						
		2 あおむけから、両肩を引き起こしたとき頭があがる		○						
		3 肩を支えてやると、脊柱が腰の近くまで伸びる		○						
		4 支持している台の上に腹ばいにして、台をゆっくり傾けると、台から落ちまいとする動きがみられる					○			
		5 長座をとらせると手を前につき、ひとりで座っている					○			
第 2	7～12か月	6 上肢を伸ばし、下肢を直角に曲げ、四肢で支える				○				
		7 座らせ、片腕を横に引く（押す）と体が平衡を保つように動く				○				
		8 椅子に腰掛ける				○				
		9 正座で座る				○				
		10 つかまって立っている				○				
第 3	13～18か月	11 立って両手を高くあげる				○				
		12 立位から一人で座る				○				
		13 手首を上下に振る				○				
		14 立たせ、前後・左右に引くと頭の立ち直りと平衡を保つため一方の足を踏み出す				○				
		15 物につかまって、つま先立ちをする				○				
		16 しばらくの間、しゃがみ姿勢のままている				○				
		17 立ったりしゃがんだりする				○				
第 4	19～24か月	18 立った姿勢で上や横を向く				○				
		19 かかとをそろえて30秒以上気をつけをする				○				
		20 立った姿勢で手を頭の後ろで組む				○				
		21 足を前後に開いて立つ				○				
		22 長座位で座る				○				
		23 手を壁についてもたれる				○				
		24 椅子の上に立つ				○				
		25 腕を同時に側方に振る				○				
		26 立ったままでぐるっとまわる				○				
		27 開眼片足立ちが一瞬できる				○				
		28 斜度15度の面に立ちバランスをとる				○				
第 5	25～36か月	29 平均台の上で両足を前後に開いて1分以上立つ				○				
		30 後ろ向きに壁にもたれる				○				
		31 肘をまっすぐに伸ばして片腕を上げる				○				
		32 指先を伸ばし、肘を90度に曲げて片腕を上げる				○				
		33 両腕を同時に前後に振る				○				
		34 肩を連続して上げ下げする				○				
		35 かかとを連続して上げ下げする				○				
		36 両膝をつく				○				
		37 体育座りをする				○				
		38 あぐらをかく				○				

2 移 動

ステージ	発達年齢	項 目	チ エ ッ ク	筋 力	敏 捷 性	平 衡 性	協 応 性	巧 ち 性	柔 軟 性
第 1	0～6か月	1 ムズムズと体を動かす		○					
		2 手足をバタバタ動かす		○					
		3 あおむきから横向きにねられる		○					
		4 あおむきからはらばいにねられる		○					
第 2	7～12か月	5 腹や肘を同時につき上体を引きずって移動する		○					
		6 上肢を交互に前または後ろに出して這い這いする		○					
		7 四肢を交互に出して這い這いする		○					
		8 固定された物につかまって動きまわる		○					
第 3	13～18か月	9 人につかまって歩く				○			
		10 階段を這いあがる		○					
		11 ひとりて歩く				○			
		12 手すりにつかまって階段をのぼる				○			
第 4	19～24か月	13 ころばないで走る				○			
		14 シャがんで歩く				○			
		15 つま先で歩く				○			
		16 ヨーイドンの合図でかけだすことができる			○				
		17 横ころがりができる					○		
		18 前の子の肩につかまって歩く					○		
		19 砂の入ったバケツを持ち運ぶ		○					
		20 高さが5～10cmの棒をまたぐ						○	
第 5	25～36か月	21 三輪車のペダルをこいで進む					○		
		22 一段ごとに足をそろえて階段をのぼったりおりたりする				○			
		23 すべり台にのぼり、すべりおりる					○		
		24 高さが30cm位の棒をまたぐ					○		
		25 後ろ向きで歩く				○			
		26 とび箱1段をまたぎ越す					○		
		27 横歩きをする					○		
		28 転がってくるボールを素早くよける			○				
		29 両足で左右に跳ぶ		○					
		30 ひものついたタイヤを引っぱって歩く		○					
		31 曲線に沿って歩く						○	
		32 大またで歩く						○	
		33 大玉を転がす						○	
第 6	37～48か月	34 前方にまわれる					○		
		35 直線の上を踏みはずさないで歩ける(幅10cm)					○		
		36 片足でケンケンが数歩できる				○			
		37 スキップができる					○		
		38 直線の上を踏み外さないで後方に歩ける(幅10cm)				○			
		39 カエル跳びで前進する						○	
		40 足を持ってもらい手だけで前に進む			○				

ステージ	発達年齢	項目	チェック	筋力	敏捷性	平衡性	協応性	巧み性	柔軟性
第 6	37～48か月	41	両足を交互に出して階段をのぼったりおりたりする				○		
		42	すべり台を逆さにのぼる		○				
		43	平均台の上を横歩きをする				○		
		44	少し間隔を置いて並べられた台(動かないもの)などをいくつか渡り歩く					○	
		45	転がってくるボールを移動して受け止める					○	
		46	中腰程度にかがみこんで、両足踏み切りで跳ぶ		○				
		47	両ひざ立ちの姿勢から素早く立ち上がる			○			
		48	うつぶせの状態から2秒位で立ち上がる			○			
		49	20～30mを一定の速さで走る					○	
第 7	49～60か月	50	あおむけの姿勢から気をつけの姿勢まで起きあがり早くできる			○			
		51	なわ跳びで前回り跳びをする				○		
		52	足を高くあげて歩く				○		
		53	階段を後ろ向きで降りる				○		
		54	階段を走ってのぼったり降りたりする				○		
		55	たいこ橋の上を渡る				○		
		56	ケンケンで5m前進する				○		
		57	つま先歩きを5m以上する				○		
		58	平均台の上を両足で交互に出して歩く				○		
		59	うさぎ跳びをする				○		
		60	つま先走りをする			○			
		61	転がってくるボールをよける			○			
		62	50mを16秒位で走る		○				
63	1kmを休まず走る		○						
第 8	61～72か月	64	補助輪つきの自転車に乗ることができる				○		
		65	平均台の上を後ろ向きに歩ける				○		
		66	平均台の上で方向転換をする				○		
		67	平均台を5秒位で歩く				○		
第 9	73か月～	68	なわとびをしながら走る				○		
		69	ひも回し跳び(長なわ)ができる				○		
		70	飛んでくるボールをよける			○			
		71	50mを13秒位で走る		○				
		72	いろいろな間隔に置かれた物をまたいで歩く				○		
		73	ケンケンを20m以上する		○				
		74	ジグザグ走りができる				○		
		75	ジグザグに飛びながら前に進む				○		
		76	走りながらボールをつくことができる				○		
		77	ボールをけりながら走る				○		
		78	ハードル走ができる				○		
79	走り幅とびができる				○				

3 操作 学習場面（書く、描く、切る）

ステージ	発達年齢	項 目	チ エ ッ ク	筋 力	敏 捷 性	平 衡 性	協 応 性	巧 ち 性	柔 軟 性
第2	7～12か月	1 なぐりがきをする					○		
第3	13～18か月	2 ぐるぐる丸をかく					○		
		3 まねてクレヨンで短い線をかく					○		
第4	19～24か月	4 自発的に走りがきをする					○		
		5 一本の線を引く					○		
第5	25～36か月	6 縦の線や丸をまねてかく					○		
		7 手首を使ってかく					○		
		8 点を打つ					○		
		9 交差した2本の線を引く					○		
第6	37～48か月	10 はさみで紙を切る					○		
		11 親指、人差指、中指でえんぴつをもつ						○	
		12 セロハンテープで物をとめる						○	
第7	49～60か月	13 正方形や三角形をかく						○	
		14 円や三角形をはさみで切って貼る						○	
		15 金づちで釘を打つ					○		
		16 人、家、木などの絵をかく						○	
第8	61～72か月	17 はさみで絵をずれないように切り抜く						○	
		18 定規を使って直線を引く						○	
		19 線からはみ出さないように色を塗る						○	
第9	73か月～	20 のこぎりで木を切る						○	
		21 ピアノで簡単な曲をひく						○	
		22 カッターを使って紙を切る						○	
		23 波縫いをする						○	

生活場面（更衣・食事・洗顔・排泄）

ステージ	発達年齢	項 目	チ エ ッ ク	筋 力	敏 捷 性	平 衡 性	協 応 性	巧 ち 性	柔 軟 性
第1	0～6か月	1 哺乳ビンを自分で持って飲む					○		
		2 手にふれた衣服などをひっぱる					○		
		3 自分の着ている衣服を引っ張りあげる					○		
		4 取手のあるコップを両手で持って飲む					○		
		5 ビスケットなどを手で持って食べる					○		
		6 あごひものついていない帽子を頭から取る					○		
第2	7～12か月	7 スプーンを握りこんで持って食べるがこぼす					○		
		8 取手のあるコップを片手で持って飲む					○		
		9 小瓶のふたを左右に回す						○	

ステージ	発達年齢	項	目	チ エ ッ ク	筋 力	敏 捷 性	平 衡 性	協 応 性	巧 ち 性	柔 軟 性
第7	49～60か月	51	靴下をひとりで履く						○	
		52	ひとりで上着を着る						○	
		53	ひもを固結びにする						○	
第8	61～72か月	54	箸を上手に使う						○	
		55	フォークやナイフを持って食べる						○	
		56	衣服をひとりで着脱する						○	
		57	両手で顔を洗う						○	
		58	お尻を拭くことができる						○	
第9	73か月～	59	食事の配膳ができる					○		
		60	調理道具を使える						○	
		61	箸で大豆などの細かい物を挟む						○	
		62	脱いだ服を肩・袖等にあわせてたたむ						○	
		63	作業服の横・胸のボタンをかける						○	
		64	制服のリボンを結ぶ						○	
		65	制服の首のホックをとめる						○	
66	脱いだ服をハンガーにかける						○			

遊び場面（玩具・土・砂・粘土・紙・ボール）

ステージ	発達年齢	項	目	チ エ ッ ク	筋 力	敏 捷 性	平 衡 性	協 応 性	巧 ち 性	柔 軟 性
第1	0～6か月	1	つりさげられたおもちゃにさわる						○	
		2	おもちゃ（ガラガラなど）をつかみ、口へ持っていく						○	
第2	7～12か月	3	おもちゃ（ガラガラなど）を持ちかえる						○	
		4	おもちゃ（ガラガラ）を振る					○		
		5	紙を両手で引っ張って破る					○		
		6	粘土を握ってこねる					○		
		7	砂をかき回す					○		
第3	13～18か月	8	2個の積み木を重ねる					○		
		9	物を下手から投げたり転がしたりする					○		
		10	紙をしわくちゃにする					○		
		11	粘土を押しつぶしたりちぎったりする					○		
第4	19～24か月	12	じょうろで水をかける					○		
		13	おもちゃの自動車や自転車を押して遊ぶ					○		
		14	紙をしわくちゃに握りこんで丸める					○		
		15	砂を空缶などに入れて遊ぶ					○		
		16	5・6個の積み木を積み					○		
		17	ボールを投げる					○		

ステージ	発達年齢	項目	チェック	筋力	敏捷性	平衡性	協応性	巧み性	柔軟性
第 5	25～36か月	18	おもちゃのピアノを指先でたたく				○		
		19	紙を指先で破る				○		
		20	粘土をたたいたり、丸めたり、押さえつけたりする				○		
		21	8個の積み木を積む					○	
		22	上手なげでボールを投げる					○	
		23	ボールを1回つく					○	
第 6	37～48か月	24	はっきり折り目を付けて紙をふたつに折る				○		
		25	粘土を真丸く丸める					○	
		26	9個の積み木を積む					○	
		27	大きなボールを両手をしっかりと前へ広げて受け取る				○		
第 7	49～60か月	28	輪投げ遊びをする				○		
		29	粘土で色々なものを作る					○	
		30	積み木で家・門などの具体物を作る					○	
		31	肘をまげて大きなボールを腕で受け止める				○		
第 8	61～71か月	32	色々な折紙をする					○	
		33	粘土で簡単な具体物を作る					○	
		34	積み木で複雑な物をバランスよく組み立てる					○	
		35	まりを数回つく					○	
		36	バットや棒でボールを打つ					○	
第 9	73か月～	37	プラモデルなど簡単な模型を自分で作る					○	
		38	何回もまりをつく					○	
		39	まりつきでまりを足の下を潜らせる					○	

情 緒

1 発達段階表の基本的な考え方

情緒の発達段階表は健常児の情緒発達をもとに作成しており、表の中の「発達上の特徴」や「主な行動上の特徴」もその発達の特徴を示してある。したがって、この発達段階表を精神発達遅滞児に適用するにあたっては、段階表のチェック項目の背景にある情緒の分化過程をおさえて子どもの情緒表出やそのコントロールの仕方を客観的に把握したい。

特に、情緒は身体や認知的側面からはとらえにくい内面的な心の変化や動きであるため、発達年齢を特定することをこの評定の目的とはせず、対象児の情緒発達の概要をおさえることで評定の目的は達成できると考える。

2 評定の仕方と留意事項

- (1) 「発達上の特徴」の項目と「主な行動上の特徴」は対応づけてあり、チェックは、「発達上の特徴」の項目で行う。なお、その際は「主な行動上の特徴」の項目を参考にする。
- (2) 各チェック項目には、評定の対象児は、すでに発達の通過していると推定される項目もあるので、それらについては、チェックしないで番号に（ ）をする。
- (3) 情緒発達プロフィールにチェックはするが、B₁からB₃は数字が上がるほど発達しているという見方はしないように注意する。
- (4) 発達段階は、Bにチェックされた項目を全体的にみて、チェックの多い所を対象児の発達段階と推定する。なお、推定にあたっては、対象児の自我の成熟状況等も併せて検討する。
 - ・推定できない場合は、発達段階を記入しなくても構わない。
- (5) 補足の欄は、該当する番号に○をつける。
- (6) A、Bの評定内容については次の通りである。

A……………未発達の状態である。

B……………発達している。

B₁……………表出の仕方がどちらかといえば弱い、少ない、鈍い

B₂……………表出の仕方が状況に応じて、適当にコントロールされている。

B₃……………表出の仕方がどちらかといえば強い、多い、過敏である。

情緒の発達段階表

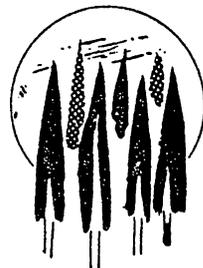
情緒の発達段階		発達上の特徴	主な行動上の特徴
I 段 階	<p>遺伝的装備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本能的傾向, 情動 ・反射の行使 ・情意性の未分化 	<ol style="list-style-type: none"> 1 強い刺激に対して, 反射的に反応する。(興奮) 2 情緒の表出が, 生得的な形で表現される。(快, 不快) <ul style="list-style-type: none"> ・身体全体で情緒を表出する ・反射的に情緒を表出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな音に対して反射的に体を動かしたり, 泣いたりする。 ・快いときに, 一人笑いをする。(生理的微笑) ・空腹, 渇き, 眠気などが起こると機嫌が悪い。 ・気分がよいと同じ行動を繰り返す。 ・姿勢の変化に喜んだり, 嫌がったりする。
II 段 階	<p>知覚的情意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚に基づいた快・不快 ・いい気持ちと悪い気持ち(反射運動がうまくいけば快, それが, ブロックされると不快) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 明確ではないが, 刺激に対して快と不快が区別されるような反応を示す。 2 不快がさらに分化し, 怒りや恐れ, 嫌忌等の表現が出てくる。(怒り, 恐れ, 嫌忌) 3 情緒が不安定で変わりやすい。 4 今までの漠然とした記憶に基づいて, ある刺激に対して以前と同じような情緒的反応を示す。(不安) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あやすと, 顔を見て笑う。(ほほえみかえし) ・自分からほほえみかける。 ・不快な時, 抗議するように泣いたり, 体を硬直させたりする。 ・怒っていたかと思うと, すぐ笑いだしたりする。 ・特定の状況を怖がったり, 不安がったりする。 ・知らない人が来ると, じっと顔を見つめて表情が変わる。(8カ月不安, 人見知り)
III 段 階	<p>基本的調節</p> <p>活性化(努力), プレーキ(疲労)</p> <p>活動終結時の成功感, 失敗感</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 身近な人や特定の物など情緒的反応を示す相手や物がはっきりしてくる。(愛情, 嫉妬)(得意) 2 対象に対して, 愛着や好き嫌いなどの感情が起こる。(子どもへの愛情, 大人への愛情) 3 情緒の表出が遅延され, 緩和される。 4 慣れた状況では, 情緒が安定するが, 初めての場面や状況では緊張や不安が生じて情緒が不安定になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の子供が持っているものに手を出したり, だだをこねたりする。 ・他の人に玩具や洋服などを見せびらかして得意になる。 ・他の子供が母親の膝に上がっていたりすると怒って押しのけたりする。 ・子どもの中にまじっていると一人で機嫌良く遊ぶ。 ・父や母のあと追いをする。 ・仲の良い友達が来ると喜び, いじわるをする子が来ると逃げる。 ・欲しい物があっても言い聞かせれば我慢して待つ。 ・悲しい時でも, すぐに泣くことはなく, しばらく時間をおいてから泣く。 ・母親や身近な人がいないと不安がる。 ・初めて会う人や経験したことのない場では緊張したり, 不安がったりする。

情緒の発達段階 (ピアジェ)		発達上の特徴	主な行動上の特徴
IV	直感的情意 初歩的な社会感情 一方的尊敬と他律的 道徳 (前操作的段階) 2～ 4歳 ・自己中心的 ・知覚優位 ・非理論的思考	1 第一反抗期が起こる。 2 初期の対人的価値づけが芽生える。(共感・反感) 3 自分とほぼ同年齢への子どもに愛情の対象を広げていく。(愛情) 4 他者との比較により、優越感、劣等感などが生れる。(優越感・劣等感) 5 他者との比較により、競争意識が芽生えてくる。(競争心) 6 親を自分のものにしようとする独占欲が現れる。(独占欲) 7 慣れた状況下では情緒をコントロールでき、さらに新しい状況でも今までの経験などを手がかりに対処するようになる。	・恐れや怒りの激しい表出(悲鳴をあげて泣きじゃくる)、成人のしつけに対する不服従や抗議・強情、親の支持に対する悪意の仕返し、いじわる、食事・睡眠・排泄の習慣への拒絶的態度、破壊的行動親の援助をはねつけて自分だけでしようとする等の第一反抗期が起こる。 ・自分に対し、やさしくかかわってくれる人に好意ある行動を示す。 ・自分の考えに支配され、相手の立場になって考えられない。 ・兄弟姉妹や遊び友達に愛情を示し、愛情を与えることができるようになる。 ・こんなことができるかと他の子どもに自慢する。 ・自分が負けるとくやしがりたり、どちらがよくなるか友達と競争したりする。 ・親への愛情を強く表現するようになる。同時に、親の愛情についての競争相手に嫉妬を示すようになる。(嫉妬) ・自分のしたいことを人の顔を伺いながらする。
	(直感的段階) 4～7歳 ・道徳感情の起源	8 目の前の対象が実物でなくても過去や未来のことを考えて喜んだり悲しんだりするなど、それらが感情の原因となる。 9 言語の介在により、意識レベルで感情をコントロールできる。 10 自分の行った結果に対して、満足感や失敗感を感じる。(満足感・失敗感) 11 自分より年下の子どもに愛情の対象を広げていく。(愛情) 12 自分の失敗や劣等性を他人に見られると感じると、逃避的緊張が現れる。(恥ずかしさ) 13 人や物に対して潜在的な価値づけをする。 14 自己の価値と相手の価値を共有できる。	・かわいそうな話を聞いたり、テレビでかわいそうな場面になると涙ぐむ。 ・遠足の時の写真を見て、楽しかったことを思い出して喜ぶ。 ・ささいなことでは泣かないで我慢できるようにする。 ・楽しい、好き、怒っているなど自分の感情を言葉であらわす。 ・物事を達成した時には喜び、うまくいかなかった時には悲しむ。 ・小さい子や弱い子の面倒をみる。 ・からかわれた時に泣いたり、その場から逃げ出したりして恥ずかしがる。 ・仲良しの友達ができたり、好まない相手はのけ者にしたりする。 ・すべり台は好きだけどぶらんこは怖いから嫌いなど、物に対して価値づけをする。 ・人の目を意識して、ひょうきんなことをしたり、泣くのを我慢したりできる。 ・泣くのを人に見られないようにする。 ・ふざけて母親や先生をおどかす。 ・他者からの行動に対して、恩を感じたり、恨んだりする。
段	階		

情緒の発達段階 (ピアジェ)		発達上の特徴	主な行動上の特徴
V 段 階	<p>規範的情意 自律的道德感情の出現 (道徳的な情操が自律的な形で出現する)</p> <p>意志の出現 (意志によって情意価値が保存される)</p>	<p>1 善悪の判断を規制への服従という形でなく自分の価値観でできる。 (信念, 正義感)</p> <p>2 葛藤を伴う感情をコントロールでき, 安定した情緒を保つことができる。(思いやり, 葛藤)</p> <p>3 自分の価値観で相手に言い返したり我慢したりできる。<相手の立場にたって物事を考え相手を尊重できるようになる> (信念, 我慢)</p> <p>4 自分のしたことに対して, 客観的な判断ができ, 満足したり, 反省したりできる。(反省, 自己満足)</p> <p>5 場によって変わる事のない社会規範, 道徳性が, 確立し始める。 <状況に関係なく一定の価値観を持つことができる></p> <p>6 ルールを絶対化しなくても集団成員の相互の意志に基づいて, 約束ごととして位置づけ遊ぶなどの集団的な感情が芽生える。 (競争心, チームワーク)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 競争して負けても, くやしさをこらえて相手をたたえることができるようになる。 人に馬鹿にされても言い返したり, 相手を批判的に見たりする。 「チョコレートは食べたいが太りたくない」的に感情のコントロールをする。 情緒はコントロールされ, その結果「うれしい」「くやしい」「ありがとう」「ごめんなさい」などのことばが出る。 相手の立場や気持ちを考え, 無理にことは要求しない。 幼児や老人をいたわることができる。 自分で行動した後, よくできたことに満足したり, 人に心配や迷惑をかけたことを反省したりする。 注意されなくても人の話や説明を最後まで聞くことができる。 自分達で作りだした約束ごとをルールにして遊ぶことができる。
	<p>イデオロギー感情 個人間感情のうえに社会的理想をめざす感情が出現。これに平行して人格が構築される。つまり, 個人は社会生活の中で一定の役割をもつ。</p>	<p>1 道徳的感情が行動の規範として働き, 場面が変わっても十分, 応用発展できる。(集団的理想)</p> <p>2 社会や国家はこうであるべきだ, こうしたらいいという感情が, はたらく。(社会正義)</p> <p>3 規範(法)への関心があり法的に許される, 許されないということが行動の制御につながる。(法の感情)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他人に迷惑にならないように礼儀正しく行動する。 友達が困っているのを見たら, 自分が不利になっても手助けをする。 間接的にしかかわりを持たない社会的なことから(本, テレビ)の情報に対しても批判したり, 喜んだりする。(政治, 宗教等) 自分のしたいことでも学校のきまりだからという理由で我慢する。 自分が不利な立場に立たされても, 他の人に「それは……だからいけない」と注意できる。

情緒の発達段階（ピアジェ）		発達上の特徴	主な行動上の特徴
VI 段 階		4 社会の中での自分の役割，自分の人生の中で今の人格を位置づける。（人格感情）	<ul style="list-style-type: none"> • 学級や学校での自分の役割が分かり責任を全うしようとする。 • 自分が働くことで社会に貢献していることを意識し，働く意欲を持つ。
		5 目に見えないものに対しても，過去の経験からイメージしてよみがえらせ，深い情操につながる。	<ul style="list-style-type: none"> • 詩，音楽等に対して，感動を覚え，喜んだり，悲しんだりする。

発達段階表の中の“発達上の特徴”にある（ ）の内容は，情緒の分化過程を示すキーワードである。なお，発達段階のチェックは，発達上の特徴によって行う。



認 知

1 発達段階表の基本的考え方

わたしたちは、かかわり合いを支える基盤の一つとして「認知」を位置づけている。そしてこの視点から子どもの行動をとらえていくに際しては、子どもたちが事物・事象をどのようにとらえ意味づけしたのかを考えていくとともに、そこに至るまでの過程においてどのような機能に支えられていたのかを分析的に見ていくことにした。そこで、わたしたちは、この認知面での機能を探っていくにあたって、ポーターズプログラム、新版K式発達検査の各項目を分類していくことで下に示す5つの下位項目を設定し、発達段階表の作成を試みた。

弁 別	AとBの違いがわかる能力
シンボル	AがBを表わしていることがわかる能力
空間	AとBの位置関係がわかる能力
時間	日常生活を時間の経過にそって思考し、判断する能力
数量	数量関係がわかる能力

ところで、子どもの行動は、わたしたちのとらえた下位項目一つ一つ単独で説明できるものではないことは当然のことであり、それぞれの下位項目について並列的な関係としてではなく複雑にからみあった構造的なものとしてとらえていくことが必要である。このことは、わたしたちの今後の課題ということになるが、発達段階表の各項目の内容についてはこのようなことから、下記の視点により分類してある。

- ・ 複数の下位項目に関連するととらえられる項目については、その中で最もその関連性の強いと思われる下位項目の項目として分類する。
- ・ 「弁別」については、他の下位項目の基礎にあるものと考えられ、それぞれの項目において必要な能力として含まれてくる。そこで「弁別」の段階としては4歳までとし、「弁別」に最も関連の強いととらえられる項目であっても、他の下位項目との関連を探り、その中の項目とする。

2 評価にあたっての留意点

発達段階表の各項目については、上述したようにポーターズプログラム、新版K式発達検査の項目から抜き出し、本校なりに整理しなおしたものである。そこで、その評価にあたっては各検査の検査方法により行なっていくことを基本とする。また、検査結果については、下位項目間の発達レベルの関連性、未通過項目の関連性等、5つの下位項目を視点として総合的にとらえていくようにする。

1. シンボル

発達年齢	項目
0 ~ 1	1 「イナイナイバー」に反応して微笑んだり声を出したりする。 2 自分の名前を呼ばれると反応する。 3 自発的に「マンマンマン……………」などと言う。 4 「バイバイ」と言う言葉や身振りに対して声や動作で反応する。 5 「メンメ」「イケマセン」等の禁止の言葉や禁止の動作に正しく反応する。 6 指差しと言葉で促されると、容器に物を一個入れる。 7 言われると、丸いペグを一本ペグボードにさす。 8 言われると、簡単な動作を一つする。 9 「チョウダイ」と言われて持っている玩具を渡す。 10 指差しに反応して、指さした方を見る。
1 ~ 2	11 指差し行動が見られる。 12 聞かれると、自分、人形の身体部位を一つ指さす。 13 「～ちゃんはどこ？」と聞かれると、自分を指さす。 14 言われると、丸いペグを5本ペグボードにさす。 15 絵や写真の中から言われたものを指さす。 16 絵本のページをめくって、言われた絵を見つける。 17 具体的な物と対応した語を3語以上言う。 18 身体部位(目, 耳, 鼻, 口)を3つ以上指さす。 19 物の名前を聞いてその絵カードを指さす。 20 「これは何ですか」と聞かれてその名前を答える。
2 ~ 3	(傘, 花, 魚, 靴, 服, はさみ) (3/6) 21 「これは何ですか」と聞かれてその名前を答える。 (傘, 花, 魚, 靴, 服, はさみ) (5/6) 22 「これは何ですか」と聞かれてその名前を答える。 (電話, 自転車, 鉛筆, 時計, 椅子, ボール) (3/6) 23 「これは何ですか」と聞かれてその名前を答える。 (電話, 自転車, 鉛筆, 時計, 椅子, ボール) (5/6) 24 言われると、特定の本を探す。 25 絵に描いた身近な物の名前を4つ言う。 26 音だけ聞いて、その物の名前を言う。 27 絵や写真が表わしている動作を言う。 28 「あなたの名前は何と言うのですか」に姓名を答える。
3 ~ 4	29 自分の性を言える。 30 聞かれると、自分、人形の身体部位を10個指さす。 31 3語文の短文を復唱する。 32 「美しい」「きれい」の意味がわかる。 33 カテゴリーで物・絵・写真等を分類する。 34 ○△□の形の名を言う。
4 ~ 5	35 赤, 青, 黄, 緑の色の名前を言う。(3/4) 36 「おなかがすいた時, 眠たい時, 寒い時」にどうしたら良いか言う。(2/3) 37 赤, 青, 黄, 緑の色の名前を言う。(4/4) 38 「学校に出かける時に雨が降っていたら」「家が火事で燃えているのを見たら」「どこかへ行こうとしてバスに乗り遅れたら」どうするかを言う。(2/3) 39 材質の異なる物の手触りを言う。 40 絵や写真にあった物を4個思いだして、選び出したり言ったりする。 41 色の名前を8つ言う。 42 文字, 数字, 標識のシンボルを照合する。 43 見慣れた物の色なら見なくても言う。 44 物語を3回聞いて、出来事を5つ思いだして言う。 45 5行ぐらいの歌を歌う。

	46	初め、真ん中、終りという言葉の意味がわかり使う。
	47	五十音を順に言う。
	48	自分の名前を平仮名で書く。(姓は書けなくてもよい)
	49	平仮名五十音のうち5文字を読む。
	50	平仮名五十音を読む。
	51	片仮名五十音を読む。
	52	平仮名と片仮名五十音を照合する。
	53	平仮名や片仮名で書かれた単語を10個読む。
	54	物の名前を聞いてどんな物かを説明する。(4/6)
5 ~ 6	55	十円, 百円, 五十円, 一円の硬貨の名前を言う。(3/4)
	56	「友達の物を壊した時」「遅刻しそうな時」「友達が足を踏んだ時」どうするかを言う。(2/3)
6 ~ 7	57	絵を見て何をしているところかを話す。(2/3)
7 ~ 8	58	二つの物の違いを言う。(卵と石, 蝶と蠅, 木の板とガラス) (2/3)
	59	言われた短文を書く。
8 ~ 9	60	5語を組み合わせて短文を作る。
	61	果物, 鳥, 動物の名前をそれぞれ5つ以上言う。
	62	3語を使って短いお話をする。
9 ~ 10	63	二つの物の類似点を言う。(船と自動車, 鉄と銀, 茶碗と皿)
11 ~	64	7語を組み合わせて短文を作る。
	65	3分以内に60語言う。
	66	三つの物の類似点を言う。
	67	反対語の中の類似点を言う。

2. 弁 別

発 達 年 齢	項 目
0 ~ 1	1 身体接触以外の働きかけに対して、顔を注視する。 2 検査者が移動する時、追視することがある。 3 人の話し声や呼びかけに対して声のする方に顔を向ける。 4 身体接触以外の働きかけに対して、声を出して反応する。 5 鏡に映った自像を注視する。 6 手が積み木に触れるとそれをつかむ。 7 鐘を鳴らすと、音のする方に顔を向ける。 8 鏡の自像に反応して微笑みかけたり、声を出す。 9 鏡の自像に反応して手をのばしたり、鏡に触れたりする。 10 未知の人に対して近寄るのを嫌がったり、避けたりする。
1 ~ 2	11 全く同じ物を照合する。 12 実物とその絵や写真を照合する。 13 模倣して円板をはめ板にはめる。 14 円, 三角形, 四角形の形をはめ板にはめる。
2 ~ 3	15 示された図形を5つの図形の中の同じ形の上に重ねる。(1/5) 16 示された図形を5つの図形の中の同じ形の上に重ねる。(3/5) 17 手ざわりの同じ物を照合する。 18 示された図形と同じ図形を10種の図形の中から探し指さす。(8/10) 19 色を照合する。
3 ~ 4	20 円, 正方形, 三角形等の形とその図を照合する。 21 示された図形と同じ図形を10種の図形の中から探し指さす。(10/10) 22 聞かれると男の子と女の子を区別して指さす。 23 二つの物が同じか違うか言う。

3. 空 間

発 達 年 齢	項 目
0 ~ 1	1 顔に布をかけると、手で取りのける。 2 目の前にあった物を視線からはずすと目で探す。 3 手に持った積み木を口の方に持っていく。 4 持った積み木を落とした時、自分で拾う。 5 布で半分隠された自動車を取り出す。 6 容器に手を入れて物を一個取り出す。 7 まねをして容器に物を一個入れる。 8 容器に物を3個入れ、容器を逆さにしてからにする。 9 積み木を弱手から利き手に持ちかえる。 10 もう一つの物を取ろうとして、物を一方の手から他方へ持ちかえる。 11 鐘の柄を持ち振り鳴らす。 12 積み木に積み木を押し付けたり、叩いたりする。 13 布で隠れた自動車を布を払い除いて取り出す。 14 容器の下に物を隠すと捜し出す。 15 汽車のように並べた3個の積み木を押す。 16 型はめ盤から円盤をはずす。 17 模倣してなぐり描きをする。 18 「ここにいれなさい」と言われて、型はめ盤に円盤をはめる。 19 積み木を積もうとする。
1 ~ 2	20 2個の積み木を積む。 21 ビンから鈴を出す。 22 なぐり描きをする。 23 3個の積み木を積む。 24 2個のコップの中に隠された1匹の犬を捜し出す。 25 5個の積み木を積む。 26 円錯画の模倣をする。 27 3個のコップの中に隠された1匹の犬を捜し出す。
2 ~ 3	28 6個の積み木を積む。 29 8個の積み木を積む。 30 まねをして縦線を書く。 31 まねをして横線を書く。 32 まねをして積み木でトラックを作る。 33 まねをして折紙を二つ折りにする。 34 まねをして積み木で家を作る。 35 まねをして折紙を四つ折りにする。 36 手本を見て円を描く。
3 ~ 4	37 まねをして十字形を書く。 38 まねをして四つ折りにした折紙を対角線に折る。 39 まねをして積み木で門を作る。 40 手本を見て十字形を書く。 41 まねをしてV字形を書く。 42 一辺が10cmの正方形の紙に対角線を書く。 43 手本どおりに積み木やビーズを並べる。 44 手本を見てジグザグ等を描く。 45 腕や脚の欠けた人物画に描き加えて完成させる。(9か所中3か所) 46 二つの三角形をあわせて四角形を作る。
4 ~ 5	47 手本を見て正方形を書く。 48 手本どおりに積み木を並べて同じ模様を作る。(1/5)

5 ~ 6	49	腕や脚の欠けた人物画に描き加えて完成させる。(6/9)
	50	手本と同じ模様になるように玉をひもに通す。
	51	まねをして積み木10個でピラミッドを作る。
	52	言われると物を別の物の前、後ろ、横に置く。
	53	自分の体について、左右を区別して言う。
	54	手本を見て積み木で階段を作る。
	55	手本どおりに積み木を並べて同じ模様を作る。(2/5)
	56	腕や脚の欠けた人物画に描き加えて完成させる。(8/9)
	57	手本どおりに積み木を並べて同じ模様を作る。(3/5)
6 ~ 7	58	手本どおりに積み木を並べて同じ模様を作る。(4/5)
	59	手本を見て菱形をかく。
	60	手本を見て積み木を並べて同じ模様を作る。(1/3)
7 ~ 8	61	手本を見て積み木を並べて同じ模様を作る。(2/3)
8 ~ 9	62	図形を記憶して描く。(1/2)
9 ~ 10	63	手本を見て積み木を並べて同じ模様を作る。(3/3)
	64	手本を記憶して、同じ模様になるように玉を紐に通す。
10 ~ 11	65	探し物を合理的で計画性のある探しかたをする。
	66	図形を記憶して描く。(1.5/2)
	67	探し物を合理性・計画性に優れた探しかたをする。
11 ~ 12	68	紙を折る回数を見て、はさみで切り込んだ時にできる穴の数を言う。
	69	紙を4つ折りにして紙の背をはさみで三角に切り込んだ時、その紙を開いた状態を想像して描く。
12 ~ 14	70	図形を記憶して描く。(2/2)
	71	紙を4つ折りにして紙の辺をはさみで三角に切り込んだ時、その紙を開いた状態を想像して描く。
14 ~	72	三角形を置換した時の形を想像して描く。
	73	出発点から東西南北、左右ある距離を歩いた時に出発点からの距離やどの方向に歩いているかわかる。

4. 時 間

発 達 年 齢	項 目	
4 ~ 5	1 朝、昼、夜がわかる。	
	2 日常生活に関連した時間を言う。	
	5 ~ 6	3 曜日を順に言う。
		4 自分の誕生日を言う。
		5 日常生活で次にすることを予測する。
6 ~ 7	6 「今日は○曜日、○日」「今月は○月」「今年は昭和○年」を言う。	
8 ~	7 ある時刻の長針と短針を逆にした時の時刻を言う。	

5. 数 量

発 達 年 齢	項 目
1 ~ 2	1 容器から6個のものを1つずつ取りだす。
	2 3個1組の重ね玩具を順に入れる。
2 ~ 3	3 聞かれると、大小を区別して指さす。
	4 聞かれると、多い少ないを区別して指さす。
3 ~ 4	5 4個1組の重ね玩具を順に入れる。
	6 大きさが異なる5個以上の輪を大きい順に輪投げ棒へ入れる。
	7 5個1組の重ね玩具を順に入れる。
	8 物が大きいか小さいかを言う。
	9 物が重いか軽いかを言う。
	10 3個以上の物で1対1の対応ができる。
	11 聞かれると長短を区別して指さす。
4 ~ 5	12 聞かれると高低を区別して指さす。
	13 まねをして3まで物を数える。
	14 積み木を指で押えながら4まで数える。
	15 まねをして10まで物を数える。
	16 10個の積み木の中から3個の積み木を取る。
	17 指で押えながら10まで数える。
	18 10個の積み木の中から4個の積み木を取る。
	19 指で押えながら13まで数える。
	20 右手、左手それぞれの指の本数を言う。
	21 10個の積み木の中から6個の積み木を取る。
	22 両手の指を合わせると何本かを言う。
	23 5以下の足し算をする。
	24 10個の積み木の中から8個の積み木を取る。
	25 500g以下の物を比べて「より重い」「より軽い」と言う。
26 物が長いか短いかを言う。	
5 ~ 6	27 ものを使って1~10までの数合わせをする。
	28 1~20まで物を数える。
	29 20までの範囲で物を数え、その数を言ったり言われた数だけ物を取る。
	30 1~10までの数字を読む。
	31 幅の広い順や長い順に物を10個並べる。
	32 1~10までの数字を順に並べる。
	33 1番目、2番目、3番目ということばの意味がわかり使う。
	34 1~25のうち言われた数字を取る。
	35 3個までの物を使って足し算と引き算をする。
	6 ~ 7
37 机を叩いた数を黙って数える。	
7 ~ 8	38 20から逆唱する。
	39 重さの違う5個のものを重さの順に並べる。
10 ~	40 20円以内の買い物でおつりを言う。
	41 加減乗除を使う算数の文章問題を暗算でする。

参考・引用文献

- 伊藤隆二・田川元康(1966)：精神薄弱児の自我に関する臨床教育心理学研究 - 自我の展開過程の設定の試み - 臨床心理 vol.1.5 67～78
- 岡本夏木(1982)：子どもとことば 岩波新書
- 鹿児島大学教育学部附属養護学校(1986)：研究紀要第5集
- 生き生きと動く子どもを育てる教育課程の編成 - 学部研究編
- 鹿児島大学教育学部附属養護学校(1986)：研究紀要第5集 同上 指導計画編
- 鹿児島大学教育学部附属養護学校(1986)：研究紀要第6集
- かかわり合いの豊かな子どもをめざして -
- 梶田 叡一(1983)：教育評価 有斐閣双書
- 倉智 佐一(1986)：人格形成の心理学 北大路書房
- 嶋津峯真他(1983)：新版K式発達検査 京都国際社会福祉センター
- 清水美智子(1988)：別冊発達⑧ 発達検査と発達援助 250～258 ミネルヴァ書房
- 鈴木 敏夫(1970)：体力の診断と評価 大修館書店
- 田中 昌人(1986)：子どもの発達と診断 4～5 大月書店
- 高原 治(1985)：ちえおくれの子どもの教育 第一法規出版
- 津守 真(1987)：子どもの世界をどうみるか NHKブックス
- 中西 信男・鱸 幹八郎(1981)：心理学⑩ 自我・自己 有斐閣双書
- 野西恵三編(1984)：心理学 - 人間理解と援助的接近 - 北大路書房
- 浜田寿美男・山口 敏郎(1984)：子どもの生活世界のはじまり ミネルヴァ書房
- 浜田寿美男(1987)：セミナー発達心理学, 発達 ③⑩ 122～127 ミネルヴァ書房
- 早坂泰次郎(1978)：人間世界の心理学 川島書店
- M・フロスティグ(1981)：人間尊重の教育 日本文化科学社
- 昌子 武司(1985)：親子関係と情緒 教育出版
- 水島 恵一(1985)：人間性の探究 大日本図書
- 村田保太郎・平井信義編(1981)：かかわりを深める 教育出版
- C・ロジャース(1967)：人間論 岩崎学術出版社
- H・ワロン(1983)：身体・自我・社会 ミネルヴァ書房

※ 三基盤の作成にあたっての参考文献は本校研究紀要第6集に掲載してある。